

「裏磐梯紀行(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「キノコのシーズンは秋」と思われているが、実は種類によって発生する時期はまちまちで、一年中見られる。たとえば天然のエノキタケ(スーパーで売っているのはちがって、シイタケよりも大きい立派なキノコ)は、冬に発生する。初夏が得意なキノコも多い。



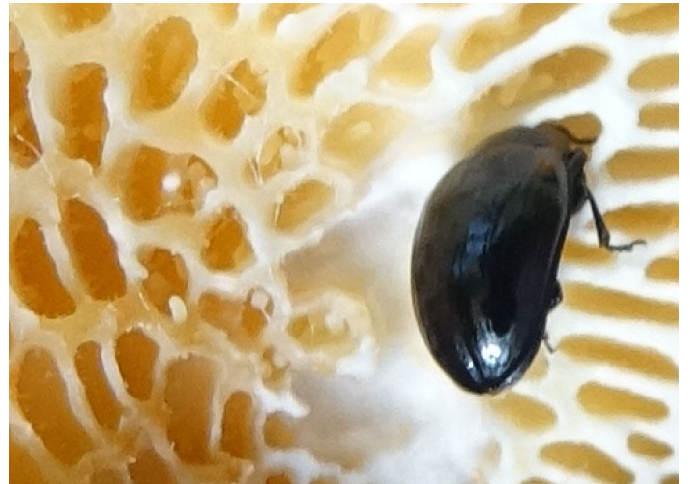
切り株に橙色の小さなキノコを見つけた。キノコの同定には、裏側(胞子を作る側)を必ず観察する必要がある。



これは「ハチノスタケ」というキノコだった。**ハチノスタケ** *Polyporus alveolaris* は、サルノコシカケ科のキノコで、見た目は柔らかそうだが、菌体は革質で強靱、寿命も長い。裏側はハニカム構造になっていて、これが名称の由来だ。この穴で胞子を作るのだ。よく見ると、黒い小さな甲虫がいるのに気付いた。

キノコを主なエサとする昆虫は2グループある。一つは「キノコバエ」の仲間で、これは幼虫がキノコの菌体(子実体)をエサとする。ハツタケ科やハラタケ科のやわらかいキノコを好む。

もう一つは「キノコムシ」の仲間で、こちらは幼虫も成虫(甲虫)もキノコを食べる。主にサルノコシカケ科などの硬くて寿命の長いキノコをエサとする。



キノコムシの仲間は非常に種類が多い。大きさも1cmに満たず、正確な同定は難しい。これは大きさや鞘翅の光沢、色合いなどの特徴から**ルリオオキノコムシ** *Aulacochilus sibiricus* に間違いなさそうだ。よく見ると子実体の穴の中に、卵のようなものも見える。卵を産みに来たメスの成虫かも知れない。

ルリオオキノコムシは、校舎内にも多い「ヒメカツオブシムシ」に、大きさも特徴もよく似ているが、鞘翅の光沢や色が圧倒的に美しい。名の通り、光の当たり具合では「瑠璃色」に見える。実はキノコムシの仲間は、その美しさや、種の多様性から、コレクターの間では人気の昆虫だという。時々オークションで生きた虫が取引されていることもあるらしい。私はもっといろいろなキノコムシを探してみたいと思った。



ヒメカツオブシムシ *Attagenus japonicas*